

# 東西条地区住民自治協議会だより

『人と歴史と緑が醸す笑顔と交流のまち東西条』

**第6号** 平成26年1月20日発行

東西条地区住民自治協議会 事務局 TEL/FAX 082-421-2023

「人と歴史と緑が醸す 笑顔と交流のまち 東西条」にみんなの力で！

東西条地区住民自治協議会 会長 横山 高嶺

初春の候 地域の皆様には健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は住民自治協議会の活動に格別のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。

昨年2月に「人と歴史と緑が醸す 笑顔と交流のまち 東西条」をまちづくりの理念とする東西条地区住民自治協議会を設立以来、行政のご支援もいただきながら、地域の皆様のご協力をいただき、話し合いと実践活動に取り組んでまいりました。「市民協働のまちづくり」を推進していくためには、日常生活に関する小さなことから、一つ一つ成果を積み上げていくことが大事なのではないかと思えます。

本年も、本自治協議会へのより一層のご指導・ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

また、暴力団追放・排除・進出阻止 該当パレードが2月1日（土）午後1時30分から市役所の駐車場及び周辺道路で行われます。暴力のない、安全で安心な明るいまちをつくるため、ぜひご参加ください。

（三城小学校・西条小学校の鼓笛隊の演奏もあります。）

## 1月役員会を開催しました

平成26年1月16日、東西条地区住民自治協議会役員会を開催し、総務、防犯・防災、福祉、健康・生涯学習、地域活性化の各部会から活動報告や今後の予定についての説明がありました。（次の面に各部会の内容や他の議題を載せています。）

尚、2月6日には、区長や民生委員児童委員の皆様方にお集まりいただき、災害時要援護者支援プラン個別の支援計画の実施について、具体的に話し合います。安全安心な東西条地区にするためにも大切な会議ですので、ご都合がつかず出席できない方には、代理の方の出席をお願いしています。よろしくお願いいたします。



（役員会の様子 1/16）

# 住民自治協議会「5部会」の事業報告・今後の予定

## 《5部会》

- 総務
  - ・「平成26年度 年間行事予定」を4月に配付したいので、2月中に予定を立ててほしい。
  - ・災害時要援護者支援プラン個別の支援計画についての話し合いを2月6日に行う。
- 防犯・防災・「防災マップ」について
  - ・地域の方に選んでいただき、該当場所の方の承認を得た一時避難場所（待機場所）を記載した東西条地区全体のマップが完成した。各区の様子がよく分かるようにマップを2、3分割したものを、区長の皆様方にご覧いただき、より良いものにしていきたい。3月には各戸へ配付予定である。
  - ・防犯・防災についての講座が市内で開かれており、ぜひ多くの方々に受講していただきたい。
- 福祉
  - ・地域サロン等既存の事業はそのまま行っていたい。
  - ・「子ども民生委員」による家庭訪問の1回目は9月に行い、小学生が参加した。2回目は12月に行い、松賀中学校の栽培部の皆さんが育てた花を小学生がひとり暮らしの高齢者の方々のもとに持って行った。2回とも民生委員児童委員の皆様方のお世話になり、感謝している。報告書を作成し、来年度に生かしていきたい。
  - ・「地域で子育て講演会」を2月15日に東西条小学校で行うので、参加してほしい。詳細については、回覧していただく別紙の案内をご覧ください。
  - ・2月23日、東西条地域センターで行う「第11回地域まるごとサロンパーティ」に福祉部会も参画する。東西条まつりに参加した広島大学の学生も参加予定である。
  - ・福祉部会長として「地域福祉計画」策定に関わり、参加している。
  - ・「子ども」をキーワードにして、地域のつながりをつくることを来年度も行っていきたい。
- 健康・生涯学習
  - ・「さわやかウォークの日」として、3月2日にウォーキングを開催する。1月22日にコース等を決定し、チラシで案内する。
  - ・「エンディングノート作成術」を3月7日と14日に行う。詳細については、回覧していただくチラシをご覧ください。
- 地域活性化
  - ・7月に星空まつり、8月に盆踊り、11月に東西条まつり、通学路のゴミ拾いを6月と12月に行った。来年度も、星空まつり、盆踊り、東西条まつりを行い、通学路のゴミ拾いは6月と11月に行う予定である。また、公衆衛生推進協議会としては健康増進事業も行いたい。



《子ども民生委員体験活動としてひとり暮らしの高齢者の方々にお渡しし、喜んでいただいた松賀中学校栽培部の生徒が作った花です》

## 通学路のゴミ拾いについて

12月14日、東西条小学校区の通学路のゴミ拾いを行いました。昨年までは、公衆衛生推進協議会吉土実地区が主催して女性会並びに各団体の共催で実施して参りましたが、今年度より住民自治協議会の事業の一環として取り組みました。今までと同様、多くの皆様方のご協力により通学路をきれいにすることができました。寒い中、ご参加くださいました皆様にお礼申し上げます。有難うございました。

## 東西条地区 ミニ・ニュース

東西条地区の話題、出来事、史跡等、お届けします。今回は、「吉土実公園」です。

吉土実保育所の跡地に公園を作るために、工事の車がしきりに出入りしています。工事は3月31日で終了し、4月からは公園として使えるそうです。

吉土実公園の地は、吉土実村立小学校が明治29年8月に校舎一棟を新築移転して以来、戦中戦後の一時期（広島陸軍被服支廠縫工部使用、広島高等師範学校附属中学校仮校舎として使用）を除いて、吉土実小学校として昭和35年3月西条小学校統合により廃校となるまで存続していました。（実際には昭和37年3月まで西条小学校吉土実教場として存続。）

昭和38年4月、西楽寺保育所（昭和27年8月創設）が、町移管に伴い施設を新築移転し、西条町立吉土実保育所として吉土実小学校跡地に設立されました。その後、市制施行に伴って東広島市立吉土実保育所となり保育を継続してきました。しかし、公立保育所民営化事業により平成23年3月廃園となり、園児は西条保育所の園児とともにサムエル西条保育園に通っています。

上記のように、この場所は東西条地区の住民にとりまして、大切な教育・保育の場でした。公園になりましても、地域の皆様方に多くの学びを与えてくれる場となるに違いありません。また、公園は、清潔で安全な場所、しかも、親しみやすく愛着の湧く場所でなければなりません。現在、市の里親制度を活用して、「吉土実公園を育てる会」がボランティア活動をされています。より多くの皆様方が自主的に美化活動をし、正しく使って、新しい学びの場として行きましょう。

### 《吉土実公園の場所の今昔》



《昭和31年頃》



《平成23年4月5日》



《平成24年1月12日》



《平成25年12月25日》



《平成26年1月9日》



《平成26年1月12日》

「こんなことがあるよ」「これは皆さんに知ってほしいな」等のニュースがありましたら、事務局（東西条地域センターTEL&FAX 421-2023）までご連絡ください。お待ちしております。

# 東西条地域センターからのお知らせ

## ◎ 「今年も素晴らしい年になりますように」

12月27日、園芸教室の高橋先生はじめ有志の皆様が、門松を作ってくださいました。門松は、歳神を家に迎え入れるための依り代（歳神が宿る安息所）で、室町時代から現在のように松竹梅で玄関の飾りとする様式が始まったそうです。

また、災いをもたらす不浄のものの中にはいらないようにとの願いの込められたしめ縄も地域の方に作っていただきました。

お陰で、今年も素晴らしい出会いとふれあいの年になりそうです。有難うございました。



《平成26年も素晴らしい年に》



《園芸教室の有志の皆様》

## ◎ 「はきものをそろえる」

トイレに、「はきものをそろえる（藤本幸邦 作）」の詩を貼りました。

はきものをそろえると心もそろう  
心をそろえとはきものもそろう  
ぬぐとときにそろえておくと  
はくときに心がみだれない  
だれかがみだしておいたら  
だまってそろえておいてあげよう  
そうすればきっと  
世界中の  
人の心もそろうでしょう



《女子トイレ》



《男子トイレ》

《詩を作った藤本幸邦さんの講演（平成5年4月14日）より抜粋》

- ・「はきものをそろえる」という言葉は、「照顧脚下（しょうこきゃっか）」という言葉が元になっている。永平寺を開いた道元禅師は、「行わないことはだめだ。実行せよ。」と言って、禅寺の修行として、まずはきものをそろえることから始めた。
- ・人間が人間として修行していくのには、心の方から修行する方法と、形の方から修行する方法がある。はきものが乱れているということは、心も乱れているということ。心が整っている人は、やることなすことが、きれいにできる。そこで、「心がそろうとはきものもそろう」とした。
- ・お手洗いのスリッパを、後から入る人のために回れ右をしてそろえておくということは、これから来る子孫、これから人類のために、「今日を生きなさい」という意味だ。
- ・私のはきものをそろえるという哲学は、実際に行うことによって、日本人の心が一つになり、日本のすばらしい生産力が世界のためになることを願っている。どんなに大きな願いも、まず自分から始めなければならない。自分が身を修めてはじめて家が整う、家が整ってはじめて国も整う。そして、世界は平和になる。人間が人間である基は、思いやりの心をもっていることだ。親は元より子を思いやる。人間の子もだけが親を思いやる。他の動物は育てられっぱなしだ。思いやりの心を大切にしていこう。